

2012/6/13

柏の景気情報（平成24年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成24年6月分）

○ 調査期間 : 平成24年6月26日 ~ 6月29日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	97	60.2%
建設	45	30	66.7%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	44	33	75.0%
サービス	37	16	43.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年6月の調査結果のポイント】

《 業況DIは横ばい 消費税増税に懸念 》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.8(前月水準▲28.4)となり、マイナス幅が▲0.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲33.3)、建設業▲13.3(同▲24.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が27.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲57.5(同▲35.4)、製造業▲22.2

【建設業】からは、「LED関係の問合せが多くなったが価格がまだ高いため受注は少ない。期待できる分野だと思う(電気工事業)」、「前年6月は震災の影響で建築工事が材料不足となり売り上げが著しく減少したため、今年は前年より増加というよりも本来の売上高に戻った状態。相変わらず施工単位は下がり、材料は高騰している。特にアスファルトを製造するところが国内で一社だけとなった結果入手が間に合わない事態もある。他材料は石油製品であるため高騰している。但し石油単価が下がってきているので今後は現状維持できるかもしれないが、原発放射能の影響で柏での集合住宅建設が減少している(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「6月に入り仕事量が減少した。三か月先の見通しも無い。非常に厳しい状況です(建築用・建設用金属製品製造業)」、「原材料価格は昨年末に一斉に値上がりして以降、価格は安定している。受注した物の短納期化が益々進み、残業対応、外注依頼となりコスト高になっている。売り上げが昨対では伸びているが、昨年の業績が悪すぎた為、増加となっている。(昨年6月度は震災の影響を大きく受けていた為)」(紙製容器製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「中元ギフトの出足が遅い。昨年よりもさらに単価が下がっている。件数でも減少気味。お客様の給与も増えずこの先良くなるとも考えられずお付き合いも減らす傾向になっている。ただし自分自身に送る産地直送ギフトは多少だが増えている(その他の各種商品小売業)」、「6月度、月初は天候に恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売上共に前年を上回る推移となった。二週目以降、雨期寒と荒れた天候が多かったため、昨年ほど夏季季節商材や節電商材需要が盛り上がり苦戦した。月末、気温は上昇してきたが、周辺SCがセールを開始した影響や、セール前の買い控えも見られ売上高は低調な推移となっている(その他の各種商品小売業)などのコメントがあった。

【サービス業】からは、「個人需要は海外好調。法人は動きはあるものの間際化(旅行業)の声が寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「今年に入り、また、先月あたりから放射能の影響の不安要素の気持ちが薄らいだ事か、若しくは消費税アップの前倒し感か、新築の情報が多く入るようになってきました。若干、景気の上がり気味を感じるようになってきました。今後の見通しとしては、消費税アップの前という感から、駆け込み的な需要が増えると思いますので、短期的な営業が必要と考えています。ただ、消費税が上がった状況を考えると、楽観的にはいられないという思いです(建築工事業)」、「消費税増税案が衆議院通過。年金問題やTPP参加などに向けて、消費が冷え込む恐れがある。企業としても、マスでは消費が落ちると仮定して投資も冷え込むのでは。国民の声を反映していない今の政治に不安を感じる(各種食料品小売業)」、「消費税率の上昇に伴い消費の伸びにまったく期待がもてなくなりました。積極的な財政出動、GDPを伸ばす政策による税収増がデフレ下では必要だと思いますので今回の可決は残念です(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎電気料金値上げ

各業種から、「昨年に比べ売上に大きな変動はないのですが仕入単価の上昇や電気料金の実質値上げが採算ベース的に厳しい月となりました。今後暑い季節になりますますます懸念されます(菓子・パン小売業)」、「電力の値上げが大きいです(菓子・パン小売業)」、「宴会は昨年と変わらず維持出来ているが、宿泊は競合他社の開業により稼働・単価共に落ちる。夏に向かい電力の値上げが心配(ホテル)などのコメントが寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種から、「景気が悪いので仕入れ業者も経営が悪く仕入単価も高くて大変苦労しています。手の打ちようがないほどです。景気が良くなるまで一生懸命やるのみです(食肉小売業)」、「仕入単価は一昨年昨年今年と原油高騰に伴いいっせいに値上がりが実施され昨今は原油価格が下がっているにも関わらずこの業界では安定したままで、利益率は縮小したままです(塗料卸売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
3月	▲20.3	▲9.6	▲21.7	▲35.2	▲10.0
4月	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲41.1	▲11.1
5月	▲28.4	▲24.1	▲17.6	▲35.4	▲33.3
6月	▲28.8	▲13.3	▲22.2	▲57.5	▲6.2
見通し	▲25.7	▲13.3	▲5.5	▲51.5	▲18.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.8(前月水準▲28.4)となり、マイナス幅が▲0.4ポイント拡大した。

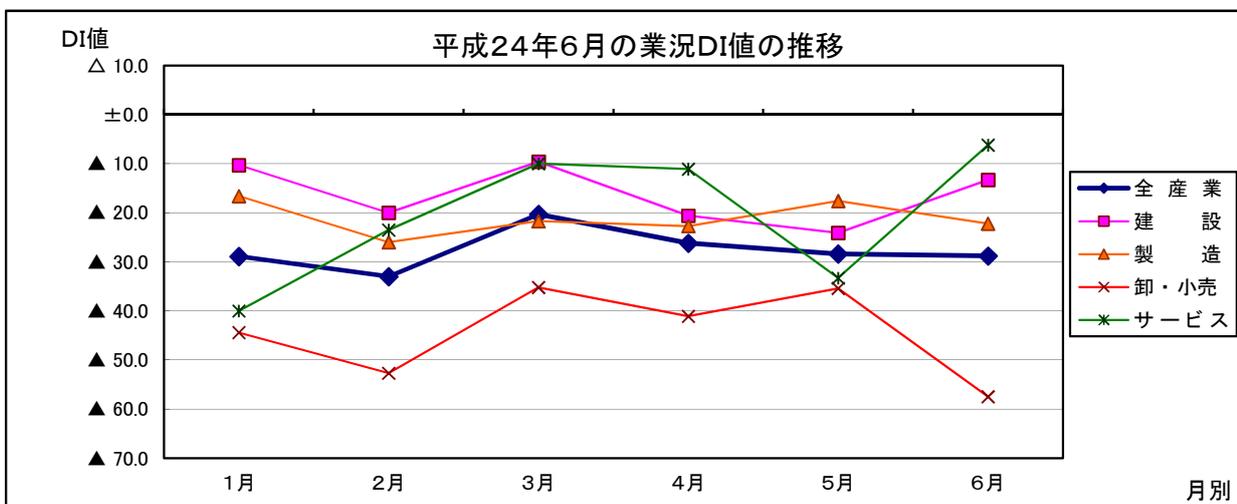
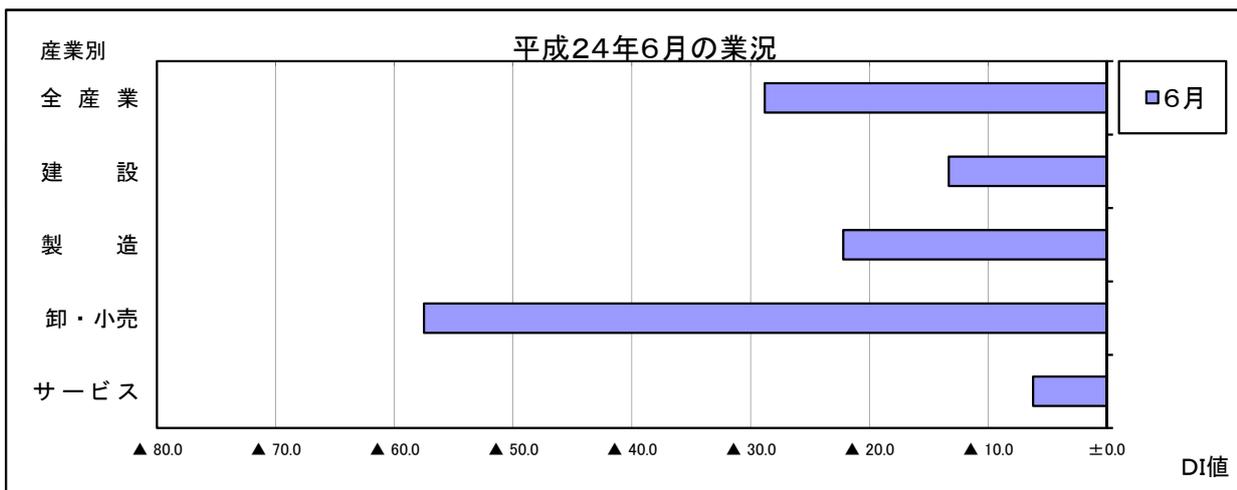
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲33.3)、建設業▲13.3(同▲24.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が27.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲57.5(同▲35.4)、製造業▲22.2(同▲17.6)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲22.1ポイントと大

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.7(前月水準▲29.4)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲38.8)、建設業▲13.3(同▲24.1)、製造業▲5.5(同▲11.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が20.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲51.5(同▲38.7)である。

平成24年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲28.9	▲33.0	▲20.3	▲26.2	▲28.4	▲28.8	▲25.7(▲29.4)
建設	▲10.3	▲20.0	▲9.6	▲20.6	▲24.1	▲13.3	▲13.3(▲24.1)
製造	▲16.6	▲26.0	▲21.7	▲22.7	▲17.6	▲22.2	▲5.5(▲11.7)
卸・小売	▲44.4	▲52.7	▲35.2	▲41.1	▲35.4	▲57.5	▲51.5(▲38.7)
サービス	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲33.3	▲6.2	▲18.7(▲38.8)



【平成24年6月の売上についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大した。

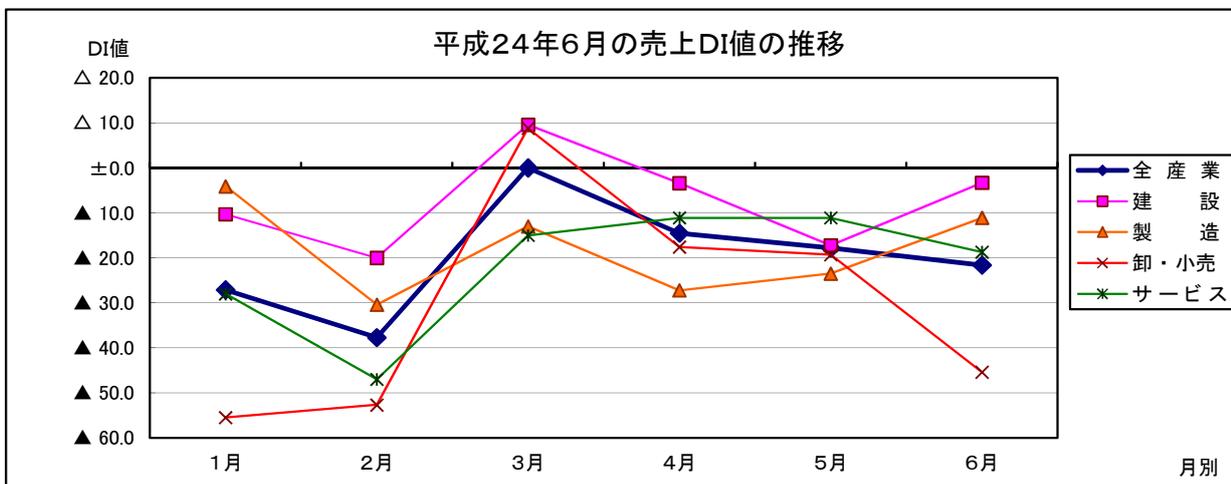
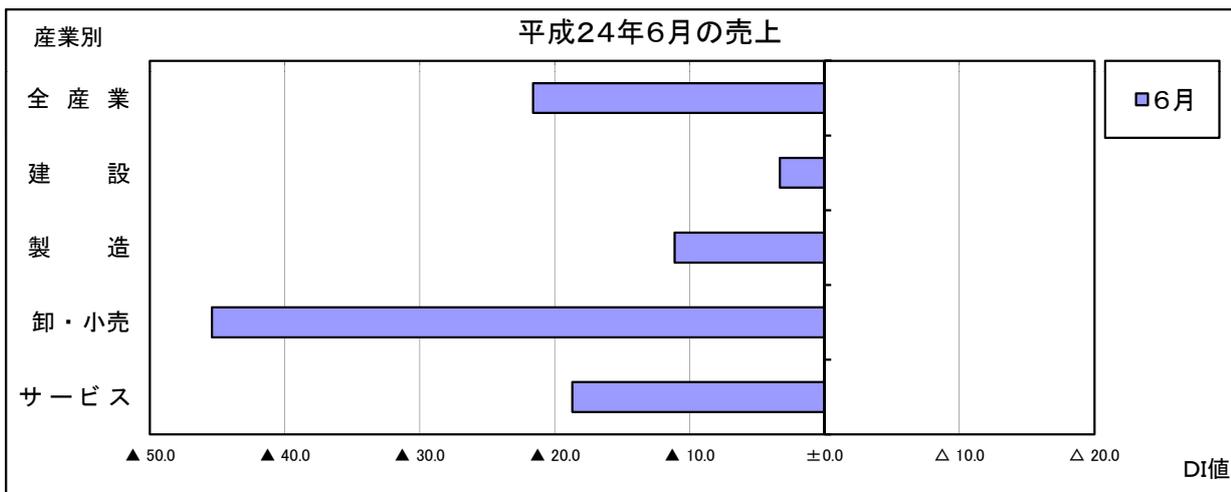
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲3.3(同▲17.2)、製造業▲11.1(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲19.3)、サービス業▲18.7(同▲11.1)である。特に、卸小売業はマイナス幅が▲26.1ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.4(前月水準▲14.7)となり、マイナス幅が▲0.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.5(同▲33.3)、建設業▲3.3(同▲10.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が20.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲36.3(同▲16.1)であり、マイナス幅が▲20.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲27.1	▲37.7	±0.0	▲14.5	▲17.8	▲21.6	▲15.4(▲14.7)
建設	▲10.3	▲20.0	△9.6	▲3.4	▲17.2	▲3.3	▲3.3(▲10.3)
製造	▲4.1	▲30.4	▲13.0	▲27.2	▲23.5	▲11.1	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲55.5	▲52.7	△8.8	▲17.6	▲19.3	▲45.4	▲36.3(▲16.1)
サービス	▲28.0	▲47.0	▲15.0	▲11.1	▲11.1	▲18.7	▲12.5(▲33.3)



【平成24年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.9(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が▲0.4ポイント拡大した。

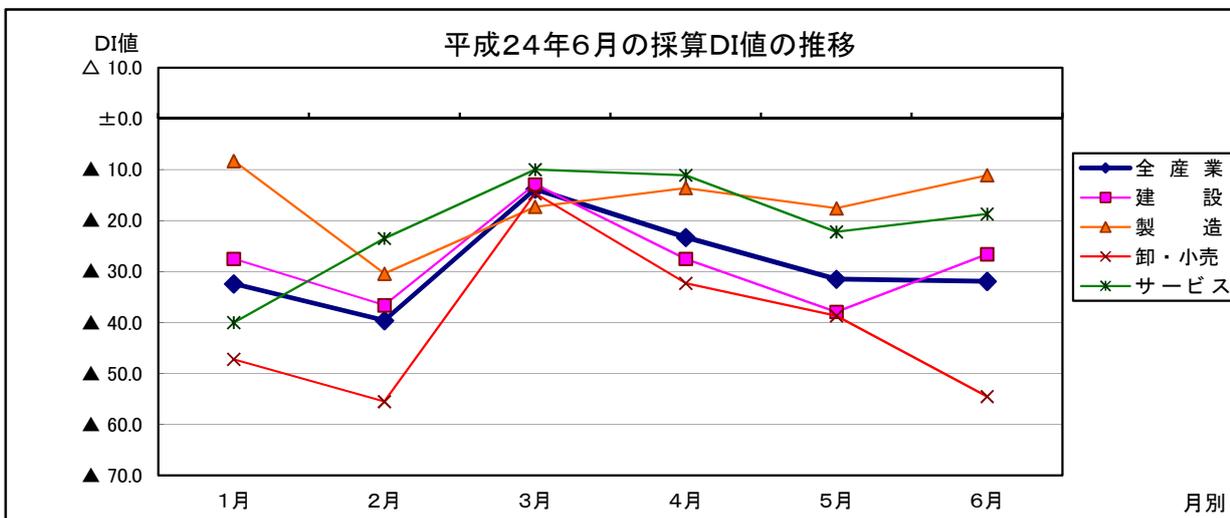
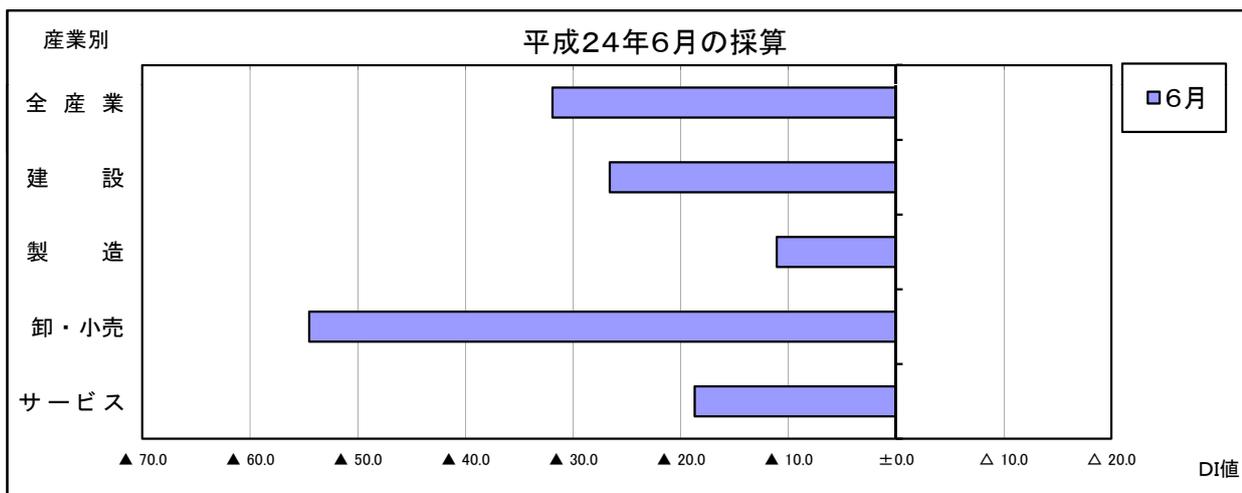
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲37.9)、製造業▲11.1(同▲17.6)、サービス業▲18.7(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲54.5(同▲38.7)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.7(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲38.8)、建設業▲23.3(同▲27.5)、製造業▲11.1(同▲11.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が20.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲39.3(同▲19.3)であり、マイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲32.4	▲39.6	▲13.8	▲23.3	▲31.5	▲31.9	▲25.7(▲24.2)
建設	▲27.5	▲36.6	▲12.9	▲27.5	▲37.9	▲26.6	▲23.3(▲27.5)
製造	▲8.3	▲30.4	▲17.3	▲13.6	▲17.6	▲11.1	▲11.1(▲11.7)
卸・小売	▲47.2	▲55.5	▲14.7	▲32.3	▲38.7	▲54.5	▲39.3(▲19.3)
サービス	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲22.2	▲18.7	▲18.7(▲38.8)



【平成24年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.5(前月水準▲29.4)となり、マイナス幅が9.9ポイント縮小した。

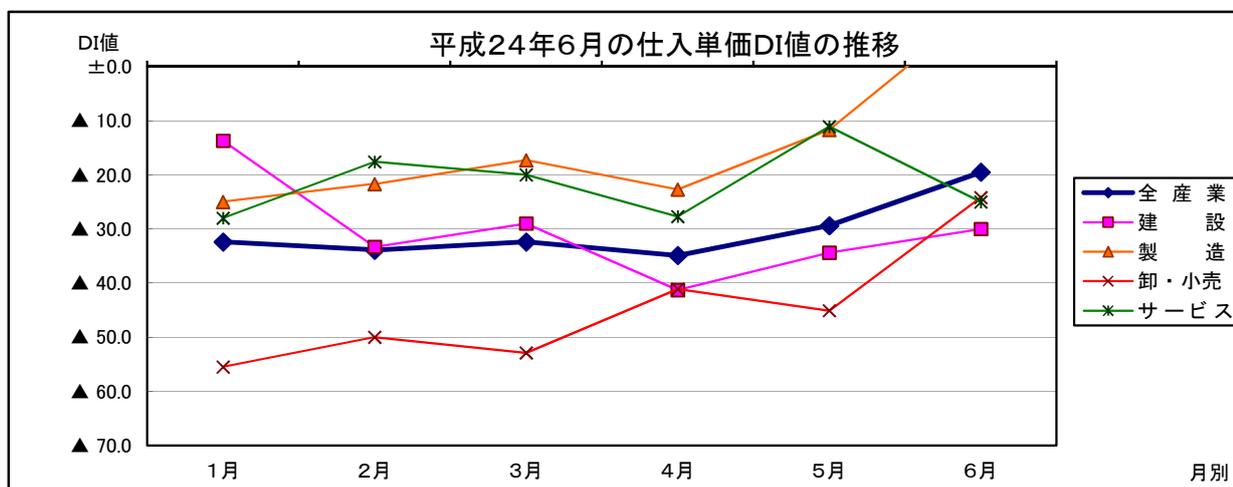
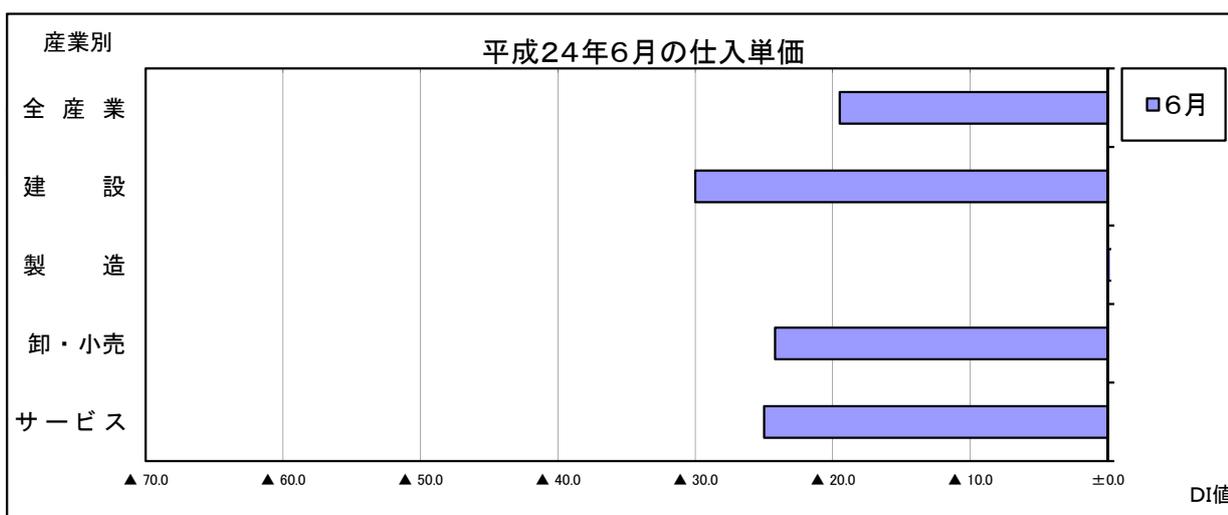
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業11.1(同▲11.7)であり、プラスへ22.8ポイント大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.2(同▲45.1)、建設業▲30.0(同▲34.4)である。特に、卸小売業はマイナス幅が20.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲25.0(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.5(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.1(同▲35.4)、建設業▲20.0(同▲20.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲5.5)、製造業▲11.1(同±0.0)である。

平成24年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲32.4	▲33.9	▲32.4	▲34.9	▲29.4	▲19.5	▲17.5(▲18.9)
建設	▲13.7	▲33.3	▲29.0	▲41.3	▲34.4	▲30.0	▲20.0(▲20.6)
製造	▲25.0	▲21.7	▲17.3	▲22.7	▲11.7	△11.1	▲11.1(±0.0)
卸・小売	▲55.5	▲50.0	▲52.9	▲41.1	▲45.1	▲24.2	▲18.1(▲35.4)
サービス	▲28.0	▲17.6	▲20.0	▲27.7	▲11.1	▲25.0	▲18.7(▲5.5)



【平成24年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、2.0(前月水準▲1.0)となり、プラス幅へ3.0ポイント拡大した。

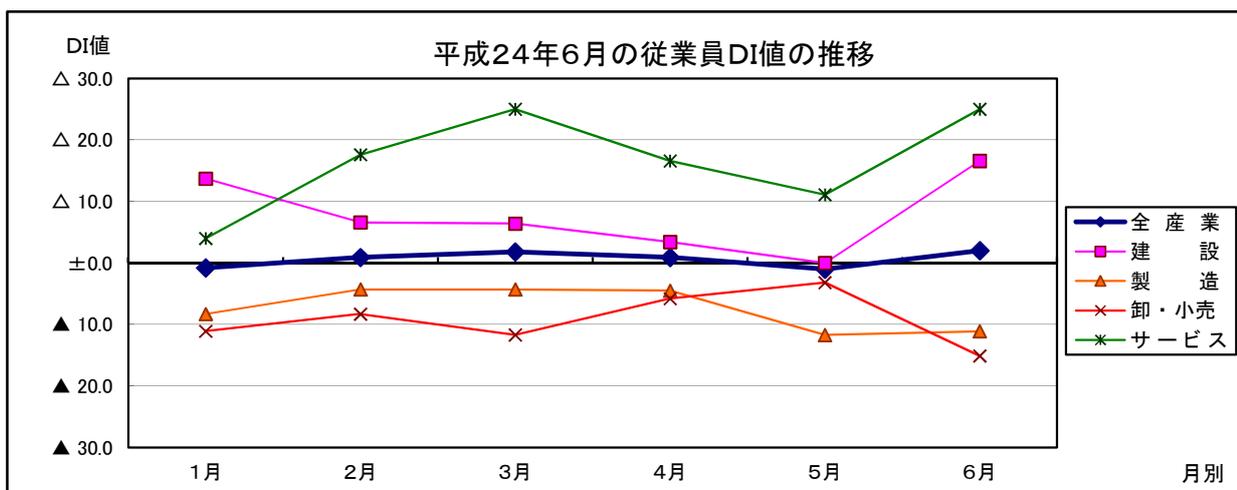
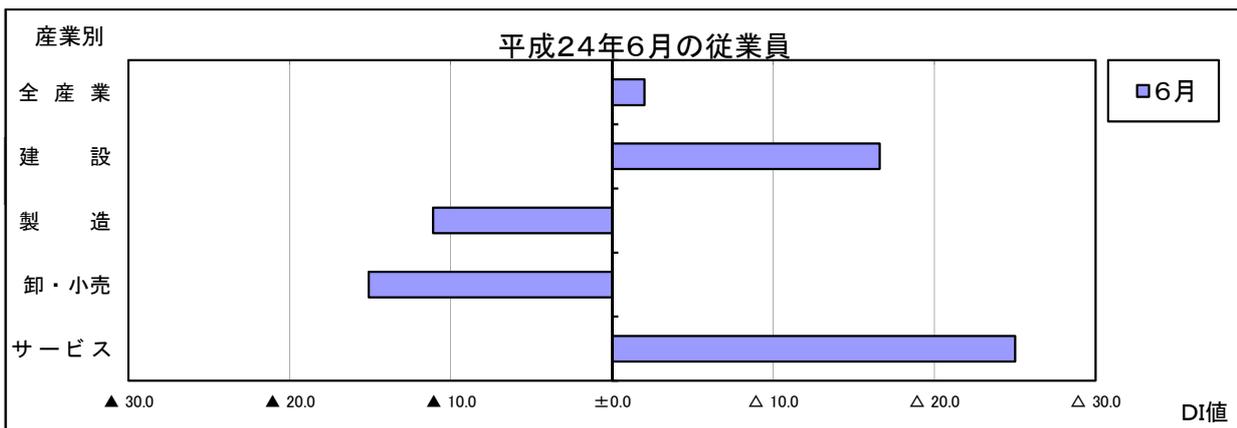
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業16.6(同±0.0)、サービス業25.0(同11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲15.1(同▲3.2)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、1.0(前月水準▲2.1)となり、プラス幅へ3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業10.0(同▲3.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲12.1(同▲16.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業18.7(同22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲5.5(同±0.0)である。

平成24年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲0.8	△0.9	△1.8	△0.9	▲1.0	△2.0	△1.0(▲2.1)
建設	△13.7	△6.6	△6.4	△3.4	±0.0	△16.6	△10.0(▲3.4)
製造	▲8.3	▲4.3	▲4.3	▲4.5	▲11.7	▲11.1	▲5.5(±0.0)
卸・小売	▲11.1	▲8.3	▲11.7	▲5.8	▲3.2	▲15.1	▲12.1(▲16.1)
サービス	△4.0	△17.6	△25.0	△16.6	△11.1	△25.0	△18.7(△22.2)



【平成24年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大した。

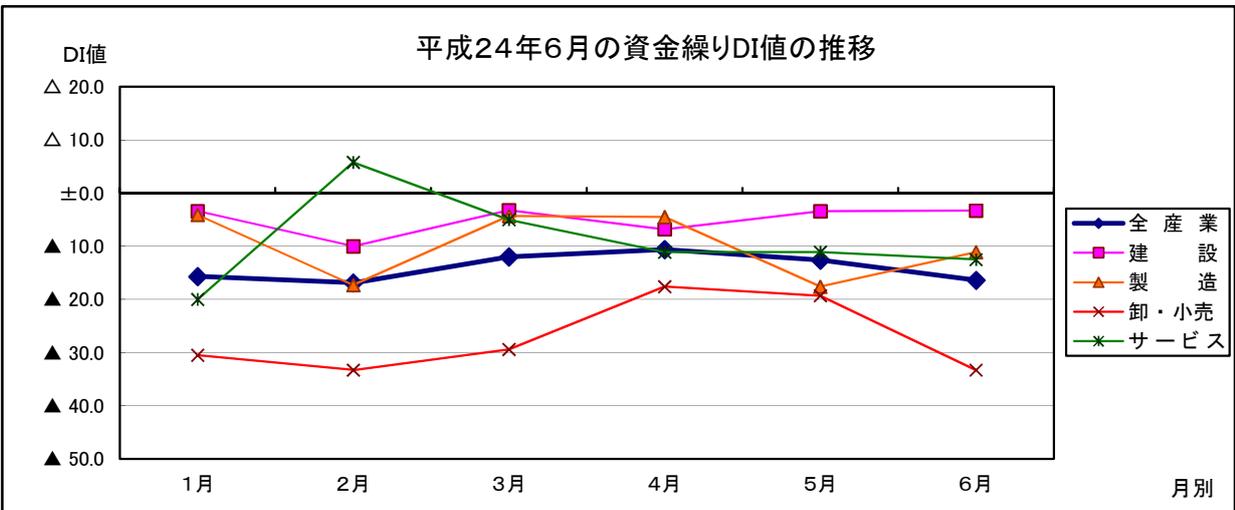
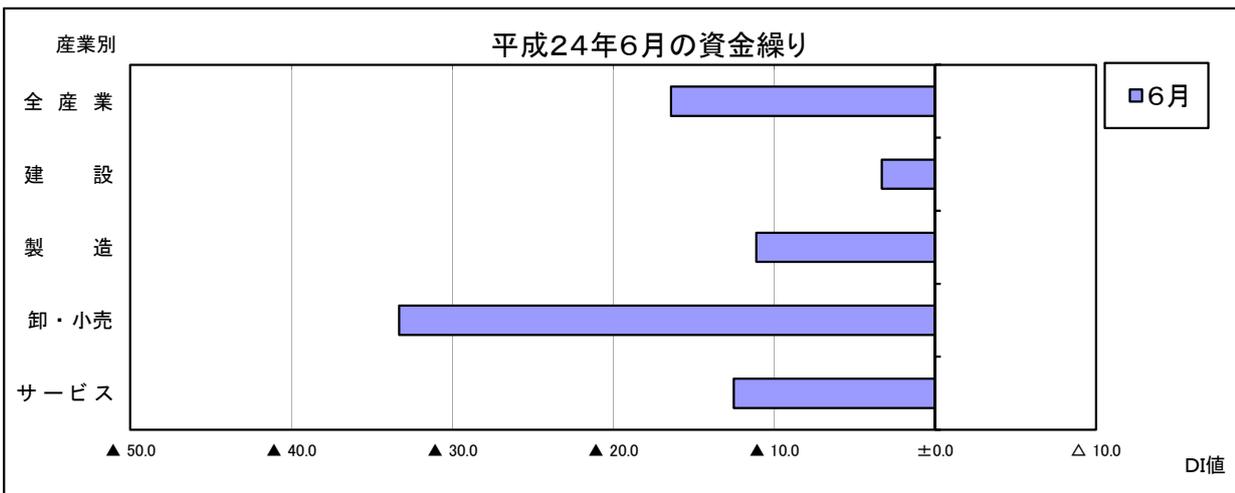
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲17.6)、建設業▲3.3(同▲3.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲19.3)、サービス業▲12.5(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.5(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.5(同▲16.6)、建設業▲3.3(同▲6.8)、製造業▲11.1(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲42.4(同▲16.1)であり、マイナス幅が▲26.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲15.7	▲16.9	▲12.0	▲10.6	▲12.6	▲16.4	▲19.5(▲12.6)
建設	▲3.4	▲10.0	▲3.2	▲6.8	▲3.4	▲3.3	▲3.3(▲6.8)
製造	▲4.1	▲17.3	▲4.3	▲4.5	▲17.6	▲11.1	▲11.1(▲11.7)
卸・小売	▲30.5	▲33.3	▲29.4	▲17.6	▲19.3	▲33.3	▲42.4(▲16.1)
サービス	▲20.0	△5.8	▲5.0	▲11.1	▲11.1	▲12.5	▲12.5(▲16.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.6	▲ 15.4	▲ 31.9	▲ 25.7	▲ 19.5	▲ 17.5	△ 2.0	△ 1.0
建設	▲ 3.3	▲ 3.3	▲ 26.6	▲ 23.3	▲ 30.0	▲ 20.0	△ 16.6	△ 10.0
製造	▲ 11.1	±0.0	▲ 11.1	▲ 11.1	△ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 5.5
卸・小売	▲ 45.4	▲ 36.3	▲ 54.5	▲ 39.3	▲ 24.2	▲ 18.1	▲ 15.1	▲ 12.1
サービス	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 18.7	△ 25.0	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.8	▲ 25.7	▲ 16.4	▲ 19.5
建設	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 3.3	▲ 3.3
製造	▲ 22.2	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 11.1
卸・小売	▲ 57.5	▲ 51.5	▲ 33.3	▲ 42.4
サービス	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 12.5

【平成24年6月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	LED関係の問合せが多くなったが価格がまだ高いため受注は少ない。期待できる分野だと思う	LED	電気工事業
	昨年は震災の復旧工事が多く、新築の工事面では落ち込んだ分、改修工事が多くありました。その後、放射能の影響で土地の動きが止まり、新築分野の落ち込みが感じられました。今年に入り、また、先月あたりから放射能の影響の不安要素の気持ちが薄らいだ事か、若しくは消費税アップの前倒し感か、新築の情報が多く入るようになってきました。若干、景気の上がり気味を感じるようになってきました。今後の見通しとしては、消費税アップの前という感から、駆け込み的な需要が増えると思いますので、短期的な営業が必要と考えています。ただ、消費税が上がった状況を見ると、楽観的にはいられないという思いです。	新築工事減少 改修工事増加 放射能の影響 景気回復 消費税アップ 掛け込み需要	建築工事業
	業績に関しては例年通り変わらず	業績不変	塗装工事業
	前年6月は震災の影響で建築工事が材料不足となり売上げが著しく減少したため、今年は前年より増加というよりも本来の売上高に戻った状態。相変わらず施工単位は下がり、材料は高騰している。特にアスファルトを製造するところが国内で一社だけとなった結果入手が間に合わない事態もある。他材料は石油製品であるため高騰している。但し石油単価が下がってきているので今後は現状維持できるかもしれないが、原発放射能の影響で柏での集合住宅建設が減少している	材料不足 売上回復 材料価格高騰 石油単価下落 住宅建設減少	その他の職別工事業
	今月は置職人が療養の為長期休暇なのでばたばたしていた。仕事が少ないのでなんとか工場が回った感じです。これから夏に向けて置張り替えの需要が高まることを期待します	職人不足	内装工事業
製造	福島原発関連の受注はひと段落しスポット的に入る以外は通常の状態に戻っている。原材料価格も下落状況にある	材料価格下落	特殊産業用機械
	受注は増えつつあるが、短納期の要求が以前にも増して高くなっている	受注増加 短納期	その他の機械・同部品製造業
	梅雨のごとく売上も湿りがち	売上停滞	印刷業
	6月に入り仕事量が減少した。三か月先の見通しも無い。非常に厳しい状況です	仕事量減少 先行き不透明	建築用・建設用金属製品製造業
	原材料価格は昨年末に一斉に値上がりして以降、価格は安定している。受注した物の短納期化が益々進み、残業対応、外注依頼となりコスト高になっている。売上げが昨対では伸びているが、昨年の業績が悪すぎた為、増加となっている。(昨年6月度は震災の影響を大きく受けていた	材料価格安定 短納期 コスト増加	紙製容器製造業
卸小売	GW後売上低迷していたが当店では夏物バーゲンを先倒しし、6月中旬よりは行ったところ、好調でかなり売上の伸びはアップしている。業界としては売れ筋商品となるものが出ないのが痛いところ	バーゲン 売上増加 売れ筋商品	婦人・子供服小売業
	中元ギフトの出足が遅い。昨年よりもさらに単価が下がっている。件数でも減少気味。お客様の給与も増えずこの先良くなるとも考えられずお付き合いも減らす傾向になっている。ただし自分自身に送る産地直送ギフトは多少だが増えている	中元商戦 単価下落 売上減少	その他の各種商品小売業
	6月度、月初は天候に恵まれたことから夏物需要が高まり、入店客数・売上共に前年を上回る推移となった。二週目以降、雨期寒と荒れた天候が多かったため、昨年ほど夏季季節商材や節電商材需要が盛り上がり苦戦した。月末、気温は上昇してきたが、周辺SCがセールを開始した影響や、セール前の買い控えも見られ売上高は低調な推移となっている。	夏物需要 売上増加 天候の影響 節電商材需要 セール 買い控え	その他の各種商品小売業
	消費税増税案が衆議院通過…年金問題やTPP参加などうけて、消費が冷え込む恐れがある。企業としても、マスでは消費が落ちると仮定して投資も冷え込むのでは。国民の声を反映していない今の政治に不安を感じる。	消費税増税 TPP参加 消費の冷え込み 政治不安	各種食料品小売業
	昨年に比べ売上に大きな変動はないのですが仕入単価の上昇や電気料金の実質値上げが採算ベース的に厳しい月となりました。今後暑い季節になります懸念されます	売上不変 仕入単価上昇 電気料金値上げ	菓子・パン小売業
景気が悪いので仕入れ業者も経営が悪く仕入単価も高く大変苦労しています。手の打ちようがないほどです。景気が良くなるまで一生懸命やる	景気悪化 仕入単価上昇	食肉小売業	

【平成24年6月の業種別業界内トピックス】

<p>フランチャイズ本部の目指しているのは近くて便利な店づくりで野菜なども売る店(ミニスーパー化)。当店でも定期的に店頭テントでの市の開催に取り組み始めた</p>	ミニスーパー	その他の各種商品小売業
<p>電力の値上げが大きいです 今月の青果物の動向は野菜では生育順調で入荷増となったが、価格が安価となった。果実は入荷減少し単価は高値の推移となっている。総体的に入荷はやや増加だが取り扱いは減少し厳しい状況です。まだまだ消費者は買い控えをしているようです。また、原発の影響として高度な測定をしても風評被害はなかなか取り除かれない。産地からの情報や買いたし人へのPRに努め市場活性化を図りたい</p>	電気料値上げ 青果物生育不順 価格安価 入荷量増加 買い控え 風評被害	菓子・パン小売業 食料・飲料卸売業
<p>順調に仕入単価が下降しているのが6月から消費者に還元している。売上高は価格改正をした分だけアップしている。設備投資も極力抑えているので採算は多少良い</p>	仕入単価下降 消費者還元 売上増加 設備投資抑制	燃料小売業
<p>仕入単価は一昨年昨年今年と原油高騰に伴いいっせいに値上がりが実施され昨今は原油価格が下がっているにも関わらずこの業界では安定したままで、利益率は縮小したままです</p>	仕入単価上昇 利益縮小	塗料卸売業
<p>宴会は昨年と変わらず維持出来ているが、宿泊は競合他社の開業により稼働・単価共に落ちる。夏に向かい電力の値上げが心配</p>	競合他社開業 宿泊稼働減少 電力料値上げ	ホテル
<p>天候により夏物の動きが悪い。消費税の為か消費行動が鈍い。客足が先月比で落ち込む。石油加工製品(ビニールプラスチック)の値上がりが多い</p>	天候の影響 消費税増税 客数減少 石油加工品値上がり	その他の飲食料品小売業
<p>個人需要は海外好調。法人は動きはあるものの間際化 消費税増税法案可決で経済がどう転ぶか予想が難しいです</p>	個人海外好調 消費税増税 先行き不透明	旅行業 不動産賃貸業
<p>消費税率の上昇に伴い消費の伸びにまったく期待がもてなくなりました。積極的な財政出動、GDPを伸ばす政策による増税増収がデフレ下では必要だと思いますので今回の可決は残念です</p>	消費税増税	不動産賃貸・管理業

◎消費増税

- ・ 今年に入り、また、先月あたりから放射能の影響の不安要素の気持ちが薄らいだ事か、若しくは消費税アップの前倒し感か、新築の情報が多く入るようになってきました。若干、景気の上がり気味を感じるようになってきました。今後の見通しとしては、消費税アップの前という感から、駆け込み的な需要が増えると思いますので、短期的な営業が必要と考えています。ただ、消費税が上がった状況を考えると、楽観的にはいられないという思いです。 建築工事業
- ・ 消費税増税案が衆議院通過。年金問題やTPP参加などにうけて、消費が冷え込む恐れがある。企業としても、マスでは消費が落ちると仮定して投資も冷え込むのでは。国民の声を反映していない今の政治に不安を感じる。 各種食料品小売業
- ・ 天候により夏物の動きが悪い。消費税の為か消費行動が鈍い。客足が先月比で落ち込む。石油加工製品(ビニールプラスチック)の値上がりが多い その他の飲食料品小売業
- ・ 消費税率の上昇に伴い消費の伸びにまったく期待がもてなくなりました。積極的な財政出動、GDPを伸ばす政策による増収増がデフレ下では必要だと思しますので今回の可決は残念です 不動産賃貸・管理業

◎電気料金値上げ

- ・ 昨年に比べ売上に大きな変動はないのですが仕入単価の上昇や電気料金の実質値上げが採算ベース的に厳しい月となりました。今後暑い季節になります懸念されます 菓子・パン小売業
- ・ 電力の値上げが大きいです 菓子・パン小売業
- ・ 宴会は昨年と変わらず維持出来ているが、宿泊は競合他社の開業により稼働・単価共に落ちる。夏に向かい電力の値上げが心配 ホテル

◎仕入単価上昇

- ・ 景気が悪いので仕入れ業者も経営が悪く仕入単価も高くて大変苦労しています。手の打ちようがないほどです。景気が良くなるまで一生懸命やるのみです 食肉小売業
- ・ 仕入単価は一昨年昨年今年と原油高騰に伴いいっせいに値上がりが実施され昨今は原油価格が下がっているにも関わらずこの業界では安定したままで、利益率は縮小したままです 塗料卸売業

平成24年6月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.8に対し、「CCI-LOBO」が▲21.3で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.6に対し、「CCI-LOBO」が▲15.5で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.9に対し、「CCI-LOBO」が▲19.4で、柏のほうマイナス幅が12.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.3で、柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が2.0に対し、「CCI-LOBO」が▲0.3で、柏の方がプラス方向へ2.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲12.7で、柏の方がマイナス幅が3.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業の方が10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

平成24年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.8	 13.3	 22.2	 57.5	 6.2
CCI LOBO	 21.3	 19.1	 13.7	 34.2	 21.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.6	 3.3	 11.1	 45.4	 18.7
CCI LOBO	 15.5	 12.3	 7.5	 30.3	 14.6

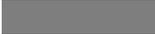
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.9	 26.6	 11.1	 54.5	 18.7
CCI LOBO	 19.4	 22.8	 14.7	 28.3	 18.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 19.5	 30.0	 11.1	 24.2	 25.0
CCI LOBO	 19.3	 25.5	 21.0	 11.4	 21.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.0	 16.6	 11.1	 15.1	 25.0
CCI LOBO	 0.3	 4.1	 0.2	 1.6	 4.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.4	 3.3	 11.1	 33.3	 12.5
CCI LOBO	 12.7	 15.2	 7.0	 16.9	 17.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成24年6月15日～21日

調査対象：全国の416商工会議所が3004業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは悪化、先行きへの不安は依然根深い

6月の全産業合計の業況DIは、21.3と、前月から3.8ポイント悪化。製造業では、エコカー補助金等が下支えしているものの、超円高等を背景に海外移転や海外調達が加速していることから受注減少が著しい。また、小売・サービス業では大手専門店(ドラッグストア・ホームセンター等)、飲食店の出店増に伴い顧客争奪が一段と激化していることが影響。なお、業況等のDIは、比較対象の前年同月(2011年6月)が、震災後、大きく低迷していた時期であることに留意が必要。

先行きについては、先行き見通しDIが24.7(今月比3.4ポイント)と、悪化する見込み。欧州の財政金融不安に伴う海外経済の減速や、今夏の電力供給不足による事業活動への影響、住宅エコポイント制度、エコカー補助金終了による内需の反動減等の懸念から、先行きへの不安は依然根深い。

産業別にみると、業況DIは、建設業は改善、卸売業は

ほぼ横ばい、その他の3業種は悪化。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「一般住宅の耐震改修工事の受注が増加している。今後は省エネ住宅の普及による工事の増加を期待」(建築工事業)、「携帯電話基地局の設備投資が旺盛なため、工事が増加」(電気通信工事業)、「再生可能エネルギー固定価格買取制度に先駆け、県が新エネルギー導入に対する事業者向け助成制度を始めたことから関連工事の受注を期待」(一般工事業)

【製造業】「鋼材・ポンプ装置等の海外調達を検討中。品質確保、安定供給が課題」(土木・鉱山機械製造業)、「現在の円高水準では輸出比率の高い当社にとっては大きな打撃。実質的に値下げをして出荷をしているような状況」(金属加工業)、「電力料金値上げの影響が大きいく、採算割れになった」(铸件製造業)

【卸売業】「取引先の海外

生産(中国)において現地調達が増加。このため、中国企業との価格競争が激化している」(服飾付属品卸売業)、「コメの流通量が減少しており、在庫の確保が困難」(農産品卸売業)、「国内市場が縮小傾向にあることから海外での販売を増やしたが、現地の嗜好、風習への対応、為替変動等を考えると難しい」(食器卸売業)

【小売業】「中元商戦は土日に雨が多かったことから、低調なスタート」(百貨店)、「競合店の出店により価格競争が激しくなっている。パートタイマーの確保も困難」(総合スーパー)、「中国における人件費高騰により仕入価格は上昇しているものの、販売価格への転嫁は困難」(スポーツ用品店)

【サービス業】「軽油価格は足元でやや下落しているものの、2、3年前と比較すると2割程度は高い状況」(運送業)、「インバウンド客による宿泊が回復傾向にはあるが、円高の影響により前々年の実績には戻っていない」(旅館)、「地元の原発停止により、関連施設の作業員による利用が激減」(飲食店) (産業別にみると、業況DI

Iは、建設業はほぼ横ばい、製造業、卸売業は改善、その他の2業種は悪化。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
3月	▲23.9	▲33.6	▲15.3	▲27.4	▲30.0	▲18.1
4月	▲16.8	▲24.0	▲9.5	▲17.3	▲27.5	▲9.6
5月	▲17.5	▲24.9	▲7.5	▲14.0	▲29.3	▲13.8
6月	▲21.3	▲19.1	▲13.7	▲14.5	▲34.2	▲21.5
見通し	▲24.7	▲19.6	▲22.4	▲15.1	▲37.4	▲22.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI